

004 ヤマト政権と古墳文化③ 推古朝と飛鳥文化①

01 古墳時代末期から飛鳥時代にかけての、石室内部が星座や神獣の絵で飾られた古墳を〔**装飾古墳**〕という。また、古墳時代後期の**有力農民層**の小さな円墳が集中的に営まれた〔**群集墳**〕が存在する地域もおおくある。

02 古墳時代の土器には、弥生土器の系統をひく〔**土師器**〕と、5世紀後半以降に朝鮮半島から伝わった硬質で灰色の〔**須恵器**〕とがある。

03 朝鮮半島から多くの〔**渡来人**〕が渡ってくるなかで、漢字や儒教が伝来した。また〔**百濟**〕の聖明王から仏教が〔**欽明天皇**〕に正式に公伝した。

04 仏教公伝には、〔**538**〕年とする戊午説と、552年とする壬申説がある。

05 6世紀、大王の系譜を記す〔**帝紀**〕と神話や伝承を集めた〔**旧辞**〕がまとめられた、とされる。

06 農耕儀礼も発達し、春には五穀豊穡を祈る〔**祈年祭**〕が、秋には収穫を感謝する〔**新嘗祭**〕が行われた。

07 鹿の肩甲骨を焼いて吉凶を占う〔**太占の法**〕や、熱湯に手を入れて真偽を審判する〔**盟神探湯**〕などの呪術が行われた。

08 けがれを除去するため、水で洗いきよめる〔**禊**〕や、拭い去るための〔**禊**〕が行われていた。

09 奈良県の〔**大神** 神社〕は拝殿のみで本殿がない古い形態を残している。

福岡県の宗像神社は、絶海の孤島の〔**沖ノ島**〕をご神体としている。

10 他に、海を祀る〔**佳吉大社**〕、天照大神を祀る〔**伊勢神宮**〕、島根県の**国造**の祭祀を起源とする〔**出雲大社**〕などもある。

●継体・欽明・敏達・用明・推古朝

01 武烈天皇で系統が途絶えると、応神天皇の5世の子孫とされる〔**継体** 天皇〕が即位した。

02 527年新羅と結んだ筑紫若〔**磐井**〕が反乱を起こした。

03 欽明天皇に対し、百濟の〔**聖明王**〕から仏教が公伝した。仏教受容に賛成したのは崇仏派の大臣・蘇我稲目、排仏派は大連の〔**物部尾輿**〕であった。

04 蘇我稲目の子で大臣の〔**蘇我馬子**〕は、587年に**物部尾輿**の子で大連の〔**物部守屋**〕を滅ぼし、権力を独占した。

05 崇峻天皇が暗殺され、急きよ即位した女帝の〔**推古天皇**〕は、蘇我馬子と厩戸王（聖徳太子）が補佐した。

06 603年に〔**冠位十二階**〕が定められ、有力豪族の個人に対して地位が与えられた。

07 604年には豪族たちに対する官僚としての心得として〔**憲法十七条**〕が発せられた。

08 589年、北朝の〔**隋**〕が久しぶりに中国統一を果たすと、600年には日本から〔**遣隋使**〕が送られた。

09 続く609年の使者の〔**小野妹子**〕が携えた国書には「天子」から「天子」へという対等の姿勢を示す文言があった。

10 皇帝〔**煬帝**〕は激怒したが、この答礼使として翌608年に〔**裴世清**〕を倭に送った。